

令和元年7月3日

三 田 市 長 様

危機管理課・交通安全対策委員会
都市政策室・交通まちづくり課
地域整備室・道路河川課
市民協働室・ウッドイ市民センター
学校教育部・教育総務課
子供未来部・子育て応援室

三 田 警 察 署 長 様

[交 通 課]

学園小学校区まちづくり連絡会

会 長

沢谷区長

上内神区長

馬渡区長

学園南町自治会長

高原住宅区長

学園3丁目自治会長

学園5丁目自治会長

学園6丁目自治会長

学園7丁目自治会長

学園8丁目自治会長

三田市立学園小学校・校長 黒川博

PTA会長

学校地域運営協議会長

私立北摂学園幼稚園・園長 中井重

[保護者会長]

学園小学校・北摂学園幼稚園直近の市道交差点付近の交通
安全施設の整備・改善について（要望）

平素から、子供たちの交通安全対策について何かとご尽力いただいているところではありますが、昨今の全国の交通事故状況を見ますと、先般 5 月に滋賀県大津市で発生した幼稚園児 2 人死亡 14 人が重軽傷を負った事故のように、歩道上で、全く罪のない幼児が犠牲になる悲惨な交通事故が頻発しており、三田市においても、同種事故の発生が懸念されるところであります。

とりわけ、当学園地区においても、こうした犠牲を出さないよう、小学校・幼稚園に近接した市道交差点及び周辺道路の交通安全施設の整備・改善が急務と思われますので、①市道交差点の横断歩道の整備 ②同交差点歩道上の幼児、児童保護のための防護柱等の設置 ③同交差点付近道路の路面緑化等のスクリーンゾーンの設置 の交通安全対策を書面をもって、要望する次第です。

記

1 交通安全施設の整備・改善要望交差点及び付近道路の状況

資料 1. 2、4 参照

- (1) 同交差点は、学園 7 丁目 1 番地先に所在し、信号機設置(午後 10 時～午前 6 時の間は南北黄点滅、東西赤点滅)の交差点であり、南北に沢谷開拓線から続く市道西 1 号線(道路幅員 8m)が走っており。関学前交差点から、県道 316 号線の関西学院北交差点へ接続している。

同道路は、近年、朝、夕の通勤・通学時間帯には、中国道三田インターや神戸北有料道路からテクノパークへの抜け道としてかなりの交通量となっており、中には、スピード過多の車両も散見される。

また、同市道南の沢谷開拓線道路には、大規模廃棄物集積施設があり、搬出のための大型トレーラーや、その直近に運輸会社ができ、大型ダンプの通行も頻繁となっている。

- (2) 同交差点南東角に三田市立学園小学校があり、東側道路の直近に正門がある(学童数 182 名・教員数 20 名)。また、道路を挟んだ向かい側には、湊川短期大学附属北摂学園幼稚園(幼稚園型認定こども園)(3 歳児～5 歳児までの園児 139 名、教員数 25 名)が所在し、学園 6 丁目、7 丁目の住宅街へと続いている。
- (3) 同交差点の西側は、学園 5 丁目、8 丁目の住宅街や学園西公園に続く道路となっている。
- (4) 上記状況から、同交差点は学園小学校児童の集団登下校時の通学路となっており、また、北摂幼稚園児も 2 台の送迎バスでの通園が主であるが、近隣の園児は、保護者に手を引かれ、同交差点付近を徒歩通園している。

2 交通安全施設の整備・改善要望事項

その(1)

同交差点横断歩道の路面の補修及び白線部分の修理塗装（緊急要望）

資料3参照

資料3の写真の示すとおり、南側歩道（3年前の台風による豪雨で、側溝が詰まり、路面が盛り上がり通行に危険が生じたため緊急補修された）を除いて、東側、西側、北側3ヶ所の横断歩道は、長年補修が放置され路面の劣化や白線の剥離が甚だしく、およそ、学校施設直近の交差点横断歩道としては、信じがたい、劣悪な状態となっている。

当連絡会として、今回の要望の上申に際して、市内各市道の横断歩道の状態を調査したが、市内各所、白線の消えかかった横断歩道は諸所見受けられたが、学校周辺の交差点横断歩道で、学園小学校横交差点の横断歩道ほど劣悪な状態で放置されている個所は、1ヶ所もなかった。

このまま放置されると、通行車両からの横断歩道の視認性の確保は、難しく、警察としても、交通弱者である歩行者を守る最重点となっている歩行者妨害の取り締まりもままならないのではないかと判断される。

同交差点横断歩道の緊急補修を切に要望する。

その(2)

同交差点で信号待ちで滞留する児童・幼児を保護する防護柱等（コンクリート製または鉄製の堅固なもの）の設置

資料2、4、5、6参照

冒頭で紹介した幼児多数が犠牲になった大津市での悲惨な事故は、交差点での事故車両が歩道に乗り上げ、幼児の列に突っ込んだもので、事故後、車両の歩道への乗揚げ防止の防護柵設置の緊急工事がなされたようである。

近年、各交差点においては、自転車の歩道通行可の歩道の増加や身障者の車椅子通行のための障害物の除去、歩道と車道との段差解消等のバリアフリー化が図られており、防護柱等の設置は、スムーズな歩道通行との観点からは、流れに逆行するものである。

従って、総ての主要交差点に防護柱等を設置することは、不合理であり、予算上、物理上困難でもある。

（注） 当交差点においても、資料6-1のとおりコンクリート製の円筒柱が設置されていたが、いつの間にか除去されている。

しかしながら、最近の交差点での車両事故の実態に鑑みると、少なくとも、児童・園児等が集団登校や集団での信号待ち等で滞留する学校直近の交差点においては、これらの安全措置が取られるべきものと判断される。

防護柵については、歩道通行の妨げになる恐れがあり、隙間を考慮した堅固かつ美観をも考慮した防護柱の設置を検討願いたい。

その(3)

同交差点及び南北 30 メートルの間の市道と東へ約 150 メートルの間の道路をスクール (キッズ) ゾーン (路面の緑化等) として整備する。(公安委員会の規制を伴わない道路管理者が行う路面の緑化等の整備)

資料 2、7 参照

近年、市道西 1 号線においては、通勤・通学時間帯、規制速度の 40km 毎時をはるかにオーバーして同交差点を通過する車両が後を絶たない。

集団登校で信号待ち中の児童を指導する登校見守り指導員も、絶対に児童が車道にはみ出さないよう神経を使い、事故防止に努めている。

通過車両に対し、同付近が児童、幼児が往来通行する要危険予防地域であることを認知させ、スピードの抑制を図る必要がある。

また、北摂学園幼稚園においては、正門前道路に 2 台の園児送迎バスが駐車し、送迎の時間帯、3 歳から 5 歳までの園児や、先生、保護者等で道路上がかなり混雑する実態があり、通行車両との事故が懸念される。

以上の状況から、同道路を緑化舗装し、スクール (キッズ) ゾーンとして、車両等運転者にスピードの抑制を促し、児童、幼児の安全を守る。

3 終わりに

以上のとおり、児童・幼児を守る交通安全対策として、学園小学校直近の交差点付近の交通安全施設の整備・改善を要望するものであるが、幸いにして、同交差点付近では、大きな交通事故は発生していない。

県内では、交差点事故ではないが、去る 6 月 13 日、西宮市内で 17 人の園児の列に車両が突っ込む事故も発生している。

三田市においては、子供たちが犠牲になる悲惨な事故は絶対に発生させないとの信念をもとに、ハード面の万全の対策をとられたい。

もとより、三田市における厳しい財政事情は承知しており、行政課題は山積しているが、児童・幼児を悲惨な事故から守る緊急対策は、内閣の指示事項でもあり、国、県への補助金申請を含め、早急に予算化を検討され、喫緊の課題として、万全の対応を望むものである。